

## 『光る君へ3』

なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは いかにかしき ものとかはしる

うだいしょうみちつなのはは  
右大将道綱母

### 【現代訳】

あなたが来てくだらないことを嘆き哀しみながら、夜が明けるまで一人で孤独に  
過ごす時間が、私にとってどれほど長く感じられるか、あなたをご存知でしょうか。  
ご存知ないでしょうね。

作者の右大将道綱母は藤原兼家の<sup>ふじわらのかねいえ</sup>妾<sup>めかけ</sup>（第二夫人）とよばれる立場にありました。当時の結婚は男が正妻の家に婿入り、妻の実家が婿のすべての面倒を見ます。地位やお金のある女性と結婚することは出世の一つと考えられていた時代のことです。妾のところには正妻を気にしながら時々夜の闇に消えるようにそっと通います。この歌は待っても来ない切ない気持ちを歌ったものです。兼家との20年に渡る結婚生活を書いた蜻蛉日記<sup>かげろうにっき</sup>は彼女の作品です。

山陽小野田かるた協会 小田広行